

重症高血圧患者ではコーヒー1日2杯以上で心臓血管死リスク2倍

一般集団において、コーヒーの摂取は高血圧の発症および死亡リスクを低下させるが、高血圧患者においては血圧を短期間上昇させる。一方、緑茶の摂取は高血圧前症およびステージ1の高血圧患者の血圧を低下させ、心臓血管病患者および一般集団の全死亡および心臓血管病による死亡リスクを低下させる。本研究では、重症の高血圧患者におけるコーヒーおよび緑茶の摂取による心臓血管病死リスクへの影響について検討した

日本人のがんリスク評価のための多施設共同コホート研究（JACC）に登録された参加者18,609例（男性6,574例、女性12,035例）が対象となり、対象を4群（①至適・正常血圧、②正常高値血圧、③グレード1、④グレード2+グレード3の高血圧）に分類した。中央値で18.9年の追跡期間中に、842件の心臓血管死が発生した。解析の結果、コーヒー非摂取群に対するグレード2+グレード3高血圧群のハザード比は、コーヒー1日1杯以下で0.98、1杯なら0.74、2杯以上で2.05となり、1日2杯以上のコーヒー摂取で心臓血管病死リスクの有意な上昇が認められたが、1杯ではリスク上昇は認められなかった。コーヒー摂取による心臓血管病死リスクの有意な上昇は、至適・正常血圧群、正常高値血圧群、グレード1血圧群では認められなかった。また、緑茶については、いずれの血圧レベルにおいても、心臓血管病死リスクとの関連は認められなかった。

したがって、コーヒーの多量摂取は重症の高血圧患者の心臓血管病死リスク上昇と関連が認められたが、高血圧でない者やグレード1の高血圧患者ではその関連は認められなかった。一方、緑茶の摂取はいずれの血圧レベルにおいても心臓血管病死リスクの上昇と関連が認められなかった。

出典：Journal of American Heart Association. 2023 Jan 17; 12(2): e026477.